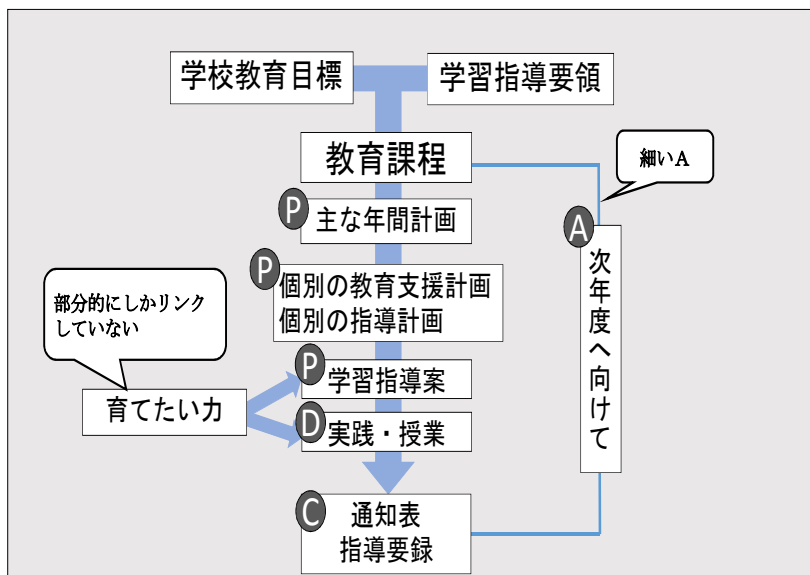


## (1) ○(まる)スタイルの概要

### ア キャリア発達を促す教育課程編成に向けて

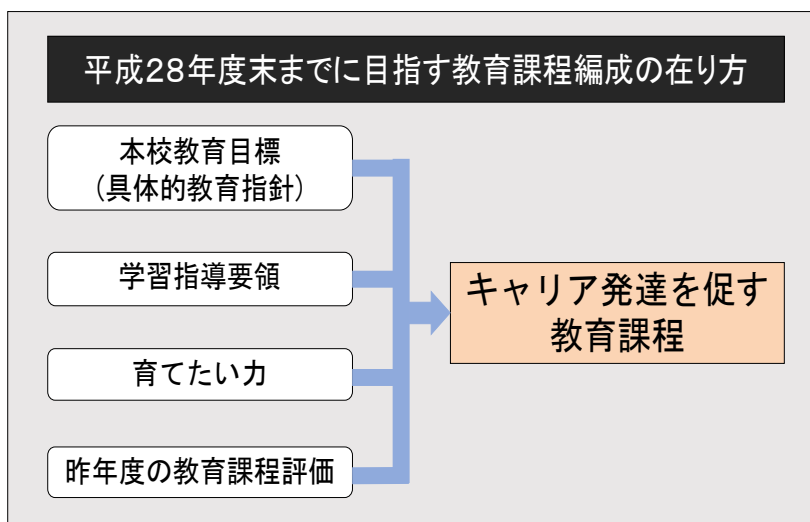
ARA・SHIの教育プログラム構築には、教育課程の編成が不可欠です。組織的、継続的に児童生徒に対する教育を行っていくために必要な教育計画であり、学校教育目標を達成する道標でもあります。そこで、平成26年度より教務部運営の教育課程検討委員会のメンバーに研究部も入り、平成25年度までの本校の教育課程の現状について振り返ると下図のように整理できます。

平成23年度から平成25年度の研究活動の成果として、小・中・高の一貫性のある教育を行うための指標である「育てたい力」一覧表により、教育を“つなぐ”ことが担保されたことです。そこでの課題は、「育てたい力」と教育課程全体との関連が希薄なこと及び個別の教育支援計画及び個別の指導計画、各学習の具体的な年間指導計画、月間指導計画、学習内容、評価表が散在していることでした。すなわち、「いつ、誰が、何を、どのようにして」教えるのかという、系統立てた計画がなく、どのような順序や関連で学ぶのが不透明でした。また、評価は通知表や指導要録が主で、指導目標や指導内容に対する評価が曖昧になっており、次の授業改善、次の教育課程の編成へのつながりが細いものでした。

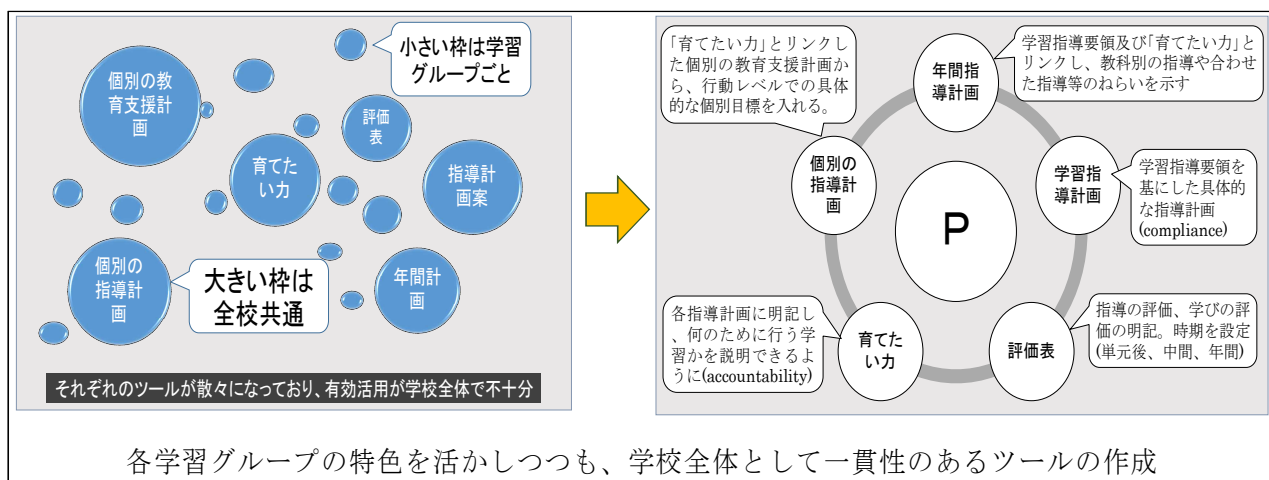


そこで、平成28年度末までのゴールを、キャリア教育を踏まえた「キャリア発達を促す」教育の充実に向けた教育課程の編成としました。そのためにPDCAサイクルの評価（C）から改善（A）への道筋を太くする必要があると考え、評価・改善機能を十分に果たしていない原因であるこれまでの諸計画（P）に着目し、見直しを図りました。

そこで、平成28年度末までのゴールを、キャリア教育を踏まえた「キャリア発達を促す」教育の充実に向けた教育課程の編成としました。そのためにPDCAサイクルの評価（C）から改善（A）への道筋を太くする必要があると考え、評価・改善機能を十分に果たしていない原因であるこれまでの諸計画（P）に着目し、見直しを図りました。



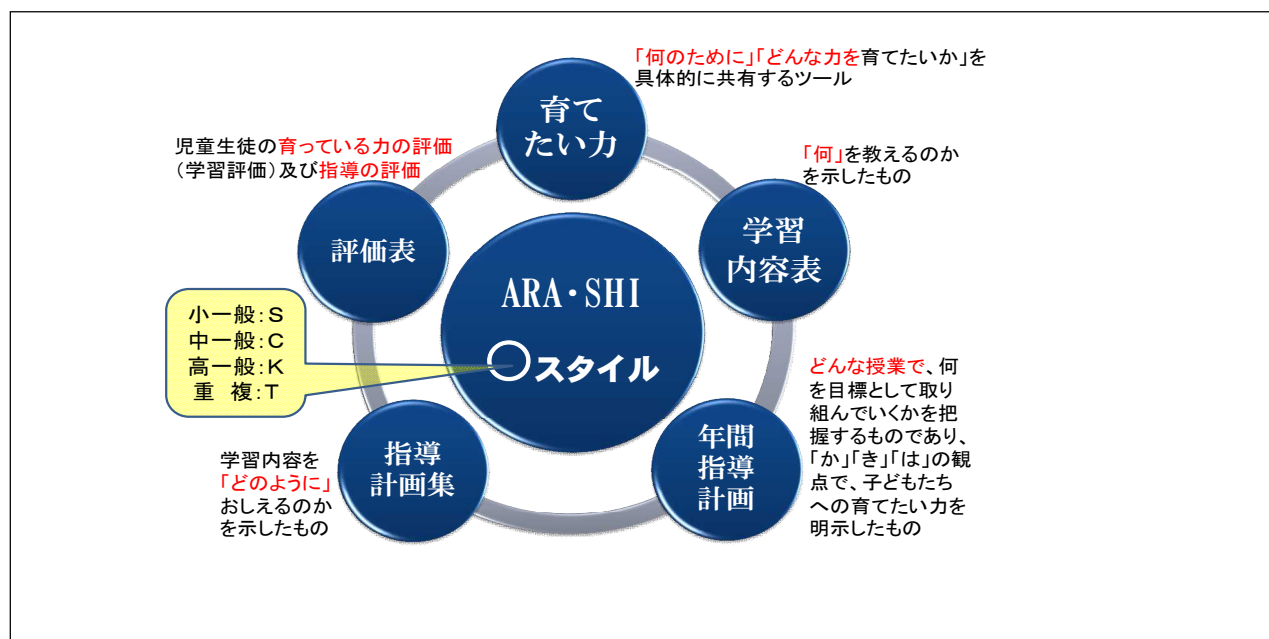
これまでの各計画やツールは、学習グループごとに独自性があり、学校全体としての一貫性が弱く、かつ、いろいろな箇所に散在している状態でした。そこで、授業計画から評価までに至るシステムのツールを整理し、一貫性のある諸計画の確立を図りました。



## イ ○スタイルの内容

学習指導要領や本校の教育課程に基づいた一貫性のある教育活動を行うために、「○スタイル」という各学習グループの特色を活かした包括的な授業改善ツールを作成しました。組織や時代の変化に対応する軸を作り、教育的ニーズに沿った教育課程や学習内容の枠(いつ、誰が)、型(何を、どの程度)が定まり、児童生徒の実態に合った幅のある学びや、キャリア発達を促すことができるのではないかと考えました。

具体的には、「育てたい力」、「年間指導計画」、「学習内容表」、「指導計画集」、「評価表」の5つのツールが連動して授業づくりに活かされるものです。「いつ」「何のために、どのような力を」「どのような内容を」「どのように」教えるのか、そして「どのような学びができているか、指導は適切か」という評価から、次の授業に改善していくかをまとめたものです。



この中に、個別の指導計画や個別の教育支援計画、学習指導要領、キャリア発達における「育てたい力」一覧表、自立活動目標設定シート等を綴じ、その冊子を基にして学習活動を展開していきます。

### ウ ○スタイルの役割

この○スタイルの役割は、どんなに組織や時代の変化が起ころうとも、○スタイルを軸とすることで、児童生徒の教育的ニーズや発達段階に応じた学習内容を精選し、指導時期、指導場面等を考慮し、児童生徒の育ちを保障することにあります。小学部から高等部までの12年間という学びの連続性を確実なものとし、その子の育ちとともに変化していく教育課程は必然であり、重要な教育システムといえます。この○スタイルが、ARA・SHIの教育プログラムの軸となると考えました。

